

1 実施日 令和7年6月30日(月) 14:00~16:00

2 出席者

(1) 協議会委員 (五十音順)

川端 康寛 (三島高等学校同窓会会長)

林 武文 (関西大学教授)

平田 ミカ (三島高等学校 PTA 会長)

堀田 好江 (高槻市立第二中学校長)

松葉 祐治 (高槻市立郡家小学校校長)

(2) 校長 山下 克弘

(3) 事務局

高原 浩徳 (教頭) 廣澤 洋二 (首席) 一馬 愛 (首席) 香西 朝夫 (事務長)

3 議題

(0) 6月5日(木)開催の「R7年度体育祭」応援団の映像を鑑賞

(1) 学校運営協議会実施要項について (教頭)

(2) 学校の状況について (教頭)

(3) R7年度学校経営計画について (校長)

(4) 学校特色枠入試について

4 委員会からの指摘提言

(2) 学校の状況について

- ・家庭学習の時間が増加しているが、学校全体での取り組みとして、ICTの活用と教員からの働きかけを今後も継続してもらいたい。
- ・卒業生の実績によって広報でのアピールができていると感じる。
- ・生徒のAI利用(学習アプリやCHAT GPTなど)への活用に格差があるようだ。AIを危険なものとしてではなく、うまく活用することを考えられるとよい。
- ・私立高校をめざす割合が増加しているが、三島高校は、学校全体として勉強する雰囲気があり、カリキュラムも国公立大学を目指せるようになっている。先生が相談に乗ってくれるというところも、先輩から後輩へ伝わっている。
- ・自由な雰囲気なので、入学後に自分のペースで学習していけるかどうかというところが大切になる。

- ・高校に入って、自分をブランディングしていく、自ら考えて、プランを立てていく。部活動加入率の高さと、文武両道で、部活動もしながら切り替えて積極的に勉強にも行事にも取り組む、その校風をこれからも大切にしながら、地域密着で交流を続けてもらいたい。
- ・国公立大学合格者が徐々に増えているが、他校での取り組みや学習時間と比べてどうなのか。違いはどこにあるのか？質なのか、量なのか？伸びているのは、取り組みの結果だと思うが、今後何をすべきかを考える時に、伸びている学校の取り組みで、合うものを取り入れてみるのも良い。
- ・三島高校のお互いに切磋琢磨できるところが良いところだと思う。自由でのびやかと感じて、多くの生徒が入学してくれていることがうれしい。高校生活を楽しみながらも進路実現ができる学校に。一緒にできることがあればサポートしたい。

(3) R7年度学校経営計画について

- ・目標値をあげるようにということは、現状がうまくいっているからだが、例えばICTも利用率が上がると、今度はどう使うのかという問題も出てくる。少しずつ見直していけたら良いのではないか。
- ・オーストラリア研修については、高校時代の経験は将来の進路にも繋がるという意味でも大きなこと。継続して行ってほしい。
- ・外からの世界を見せることで、世界観が変わる経験になることがある。それをきっかけに自分たちがこれからどうしていきたいか、どう社会に貢献できるのかを自ら考えるようになる。
- ・保護者の了承を得て、保護者の意見を学校パンフレットに掲載している学校がある。保護者としては、先輩の学校生活を知れるので安心感があるようだ。
- ・二十歳になったときにどんな夢を実現していけるのかという視点での進路指導が大切。大学の進学率は100%に近いが、どういう学部を目指し、卒業後はどういう就職をしているのか、データを追うことはできるだろうか。大学に行って終わりではなく、その先の5年後、10年後の様子、生徒の未来像がわかると良い。
- ・三島を知るきっかけの半分は学校説明会だとすると、残りは？言葉で言ってもわからないので、生の声で三島高校を知ってもらうことで、より理解してもらえる。実際の高校生活や自由な雰囲気などを伝えられたら良い。
- ・子どもたち一人一人の進路希望に応じた進路指導をしてもらいたい。
- ・不登校の生徒が増加している。中学校へ登校できないことがあって、それを話しても受け入れてくれるのが三島高校の良さ。子どもたちが一度うまくいかずとも、また復活できるような、サポートができれば良い。一人も取り残さないという思いで。

(4) 学校特色枠入試について

- ・意欲のある生徒に、門戸が広がるのなら良いが、入学後ついていけなくなるのでは良くない。これがなぜ府立高校の定員割れの対策になるのだろうか？
- ・記念受験する生徒が出るのではないだろうか。落ちてダメージがないので、気軽に受けたりすることもあるだろう。進路指導で混乱するし、何をめざして指導するのか。思っていたのと違う高校生活にならないか。また、生成AIの利用もあるのではないか。

- ・特色枠で多く選抜すると、一般枠が減る。気を付けないと定員割れを起こすかもしれない。他大学との関係で、定員割れを防ぐため補欠合格を出したりしているところもある。受験者数を予測しにくい。スポーツ推薦で入学したものの退学する生徒もあり、特色入試がうまくいっていない例もある。
- ・選抜のプロセスに、日程の余裕を持たせる必要がある。そうでなければ、受験する生徒にも失礼になる。これまでの良い雰囲気が崩れないかと心配。
- ・競合校の希望者が（私立も含めて）、三島高校に行こうと思うような選抜があれば、特色枠を大きく設定しておいた方が受験者が増えるだろうか。求める生徒像では、～できるというところを評価するのなら、言葉で語るのではなく、実際にやってもらうようにするなど工夫が必要。
- ・どれか1つのアドミッションポリシーを満たすのではなく、4つとも兼ね備えていることが大切。
- ・協議会としては、特色枠入試についてもっと時間をかけて検討してくださいと府教委に要望したい。